

## 5. 教員の国際的な活動

### 1) 協定校との交流活動

#### (1) 弘光科技大学との活動

弘光科技大学とは、看護学部教員との情報交換を継続した。今年度は、看護学部4回生の看護研究の共同実施に際して、Yann-Fen C. Chao 護理学部主任教授、雷若莉護理学部長、張彩秀副教授へと交流が拡張した。

#### (2) インドネシアガジャマダ大学との活動

ガジャマダ大学 Elsi Dwi Hapsari 教授より Guest Lecture の依頼があり、Maternal and child Health response in Japan under the COVID-19 Pandemic について、講義予定ある（現在日程調整中）。

### 2) ミャンマー緊急支援プロジェクト

特定非営利活動法人ピースウィンズジャパン（PWJ 本部・広島県）と本学は、2020 年以来災害時支援および平時の研究協力、人的交流について協定を締結している。PWJ は国際的な緊急人道支援活動で定評があり、直近ではロシアによるウクライナ侵攻についても、ウクライナ避難民の受入れを行っている周辺国に対して迅速に支援を開始している。

2021 年1月に発生したミャンマー軍事クーデターとその後の人道危機に対する支援活動に関しては、本学・木下教授に対して協力の打診があり、現地 NGO の Community Development Association (CDA) と連携しながら、2021 年末より具体的な支援策の協議を重ねている。

現在は、米国国際開発庁(USAID)が募集する周産期母子保健助成事業 “High Impact Maternal, Newborn and Child Health (HI-MNCH) Activity (NOFO Number: 72048222RFA00001)” を念頭とした、周産期保健サービスアクセス改善プロジェクトを計画し、そのメインコンセプトの提案、技術的部分のプロポーザルの執筆は木下教授が担当した。提出されたプロポーザルは、第一次審査を通過し、3月中旬にはワシントン本部、現地アメリカ大使館事務所担当者、専門家の参加の参加する第二次審査（遠隔）が実施された。第二次審査会では、企画の具体的な部分のプレゼンテーションおよび技術的課題に関する質疑コメントへの応答、ディスカッションは木下教授が主に担当した。

このプロジェクトには、本学がこれまでに培った地域共生の実績や中山間地域での活動など、本学の特性を生かした活動が盛り込まれており、実現すれば新たな国際的学術交流の機会を提供することになる。

### 3) 第二回ゴロンタロ州立大学（インドネシア）主催国際看護学会での招待講演

インドネシア・ゴロンタロ州立大学が主催する The 2nd Virtual-Gorontalo International Nursing Conference (V-GINC) に看護学部木下准教授（当時）が招待され、”Lessons learned from Japanese nurses; the role of nurses in disaster risk mitigation & the impact of the COVID-19 pandemic on disaster nursing.” と題する講演を行った(2021 年3月末)。会議は遠隔および対面のハイブリッドで開催されたが、500 名以上の遠隔での参加者以外に、数か所の会場にそれぞれ数百名の観客が集まり、講演後は予定を大幅に超えて1時間近く、活発な質疑応答が行われた。